

第11回 河内長野市地域公共交通会議録

会議名称	第11回 河内長野市地域公共交通会議
開催日時	平成24年1月25日（水） 午後3時～
開催場所	河内長野市役所 7階 701会議室
公開・非公開の別 （非公開とした場合はその理由）	公開
傍聴者	3人
出席委員	別紙出席者名簿のとおり
会議次第	(1) モックルコミュニティバスの上限200円運賃の試行運行状況について (2) 楠ヶ丘地域乗合タクシーの運行の実施状況について (3) 平成23年度地域公共交通活性化・再生総合事業に係る自己評価について (4) その他
会議内容	別紙会議内容のとおり

第 1 1 回 河内長野市地域公共交通会議内容

発言者	会議内容（要旨）
事務局 (松坂)	<p>【開会】</p> <p>只今より平成 2 3 年度第 1 1 回河内長野市地域公共交通会議を開催させていただきます。まず初めに本日の出欠状況ですが、池谷委員、棕本委員、井戸委員、辻野委員、中谷委員については欠席されると伺っております。また、本日は井上委員の代理といたしまして池垣様、石田委員の代理といたしまして福永様にご出席いただいております。では、この後の議事進行につきましては会長にお願いをいたします。</p>
向井会長	<p>【議題 1】</p> <p>皆さんこんにちは、1 月 2 5 日ということで、本年もよろしくお願いたします。本日は寒い中、またお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。それでは座って議事を進めさせていただきます。規約の規定によりまして、半数以上の方がご出席いただいておりますので、会が成立していることをご報告いたします。また、この会議は規約第 9 条第 4 項の規定に基づきまして、公開とさせていただきますのでよろしくお願いたします。</p> <p>議題 1 のモックルコミュニティバスの上限 2 0 0 円運賃の試行運行の状況ならびに昨年事業仕分けを実施したわけですが、その施策の様子なども併せて報告していただきたいと思ひます。事務局よろしくお願いたします。</p> <p>（事務局よりモックルコミュニティバスの上限 2 0 0 円運賃の試行運行状況及び事業仕分けについて資料 1 の説明）</p>
向井会長	<p>ご苦労様でした。</p> <p>車内調査の件、事業仕分けの件も含めて、モックルコミュニティバスに係る色々なご質問等がございましたら、お受けして議論できればと思ひますので、よろしくお願いたします。</p> <p>利用者アンケートは乗車された方全員にお聞きしたのですか。</p>
事務局 (水上主査)	<p>全員にお聞きしました。</p>
日野副会長	<p>2 0 0 円運賃について質問していただきましたが、半分の方は乗車が増えたと答えら</p>

	<p>れて、後の4割の方が減るということですが、後の利用者へのOD調査は難しいのでしょうか。何を言っているかということ、料金を戻した場合の採算の簡単なモデル化ができないかということ、料金が戻った場合にやめるとすれば、代わりにどのような手段を使うのか、何か良くなれば乗車が増えるのかというあたりについては今後の課題になるだろうと思うのです。利用者のニーズを的確に把握して、もっと使ってもらおうという話ですので、具体的な取り組みを考えた場合に、料金が戻ったらやめてしまう方々へのフォローとして、調査を追加でされる予定があるのでしょうか。今の段階では難しいかもしれませんが、お伺いできればと思います。</p>
<p>事務局 (井上課長)</p>	<p>アンケート項目を増やすかどうかについては、今後考えていかなければならないと思います。乗り込み調査は、利用者1人1人とお話しして、回答をいただいております。その中で、運賃が元に戻った場合どうか、という話をすると、利用される理由が病院ということもありまして、どうしても必要ということで、料金が上がっても利用せざるを得ないという意見が大多数でございました。</p> <p>そういうことからどうしても使わなければならない人について上限運賃の取り組みを進めていきたいと考えております。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>1年後に調査するとすれば、料金の設定が間に合わなくなる場合がありますよね。今は1年ごとにやっておられますが、次のステップへ行くために、場合によっては1年の真ん中あたりで実施するなど、利用目的等はほぼ変わらないということがわかってきましたので、運賃が戻れば減るといふ方々に重きをおいて調査するなどの検討をされるのかどうかということです。</p>
<p>事務局 (井上課長)</p>	<p>今のご意見で、私共も24年度に新たな計画を立てていきたいということがございますので、その計画に合ったアンケートの実施について検討していきたいと考えております。今のところでは、来年度も上限200円運賃については引き続き試行をしていきたいという考え方をもちております。</p>
<p>向井会長</p>	<p>収支のご質問がありまして、値段を元に戻すと利用が減ることについての考え方はどうですか。</p>
<p>事務局 (井上課長)</p>	<p>考え方としまして、資料の5ページ下の部分で、運賃の変更をしていないところにつきましては22年度に比べて減っており、値下げしたところは増えております。そのため、元に戻すと当然乗客数が減ってくるのではないかと感じています。具体的にどのくらい減るかというのははっきりしませんが、運賃を値下げせず、そのままにしていたとすれば、現在の路線バスの乗客数が横ばい、減少しているという状況と同様に、</p>

<p>日野副会長</p>	<p>モックルコミュニティバスもそのような傾向になるのではないかと考えております。</p> <p>前回の時にも、収支は前よりも下がっているが、乗客が増えているので、差は埋まりつつあるというご説明であり、今の料金で、このまま乗客が増えれば元の状態の収支になる、あるいはそれ以上になるという印象ですが、今回の調査結果に出たように、4割の利用者が、料金が戻れば減るとことや、料金が値下げになっていない区間の利用が減るといった状況が続いたとすれば、その見通しにも影響しそうだということで、そのあたりの分析をしてみた方がいいと思います。要するに、そうしないと料金を上げたときに料金が変わらないところは減り続けて、増えたところも減ることになってしまうと、結果的に元より悪くなる恐れがありますよね。今後の料金の施策を考える際にそうなる困るので、事前に検討ができるようにしておいた方がいいと思います。せっかく調査されたので、もう少し分析できるのではないかと思います。</p>
<p>向井会長</p>	<p>また先生のご指導も得て検討していく必要がありますね。</p>
<p>事務局 (水上主査)</p>	<p>22年度から上限200円運賃を試行したことによる赤字額は約150万円です。今年度の伸び率で考えますと、まだその赤字幅は縮まってくると思われます。21年度と比較して3割ぐらい増えれば上限200円運賃を行ったことによる赤字額はほぼ埋まりますので、当然それを目標にしていきたいと思っています。実際に、資料5ページの区間②で200円運賃の恩恵を受けている人の割合が増えていることと、車内でお聞きしたご意見によりますと、やはり一番南側である美加の台の駅前からは上限200円運賃を行ったことで明らかに増えているというご意見がございました。そのあたりの生の声を聞きますと、一定上限200円運賃の効果はあったと考えております。このまま来年度も行いますが、加えて色々な企画、利用者アップにつながるような企画ができればと考えております。そういったご意見をいただけたらと思います。</p>
<p>向井会長</p>	<p>実際に、できるだけ家族で乗っていただくように、子どもさんの絵画を車内に貼ったりしております。委員さんからもこんなことをすれば面白いのではないかなどご提案いただいて、取り入れていければと思います。絵画というのは一例で挙げましたが、他にこんな取り組みをすればよいか、先進的な事例など、いかがでしょうか。美加の台駅から千代田駅まで鉄道に乗りますと200円なのですが、これは駅から病院まで直通で行きますから、コストを見ますと利用されている方は便利なのですね。遠回りするので時間が非常にかかりますが、利用者の多くが時間に余裕がある高齢者のため、喜ばれているのかなと思います。</p>
<p>友田委員</p>	<p>値下げした所の区間は増加していますが、増加した方々は今まで乗っていた交通手段</p>

	<p>を替えられたのか、新たな利用として発生したものなのか、このへんについて調べていただければどういう人が乗られたかということがわかるのですが、どうでしょうか。</p>
<p>事務局 (井上課長)</p>	<p>アンケートでは調べておりません。ただ乗り込みでお話をしながらの感覚ですが、今まで南海線に乗っていたが、安いのでこちらに乗り換えたという方が半分、元々どうしても行かなければいけないが、安くなったことで乗る回数が増えたという方が半分ぐらいおられたのではないかと、あくまでも対面してお話した中でのことです。必要であればそれについてのアンケートも考えていきたいなと思います。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>例えば、自動車で送ってもらっていたが、バスに乗るようになったということであれば良いのですが、鉄道からバス、バスからバスに乗り換えたのであれば、他のバスが減っているだけであって、路線バスとの競合ということになってきますので、今ご質問いただいたように、ちゃんと調べておかなければ、全体の話で議論するとなれば、問題になるかもしれないということと、事業仕分けの資料にある、他の手段との組み合わせということイメージすると乗り継ぎ割引などだと思います。そうすると事業者さんとの関係もあると思います。個人的には前から鉄道事業者さんとバス事業者さんとの間での乗り継ぎ割引はお願いしたいということをお願いしてきましたが、なかなか事情もあって難しいようです。</p> <p>先程お話があったように、今は料金下げた分だけ増えて、車から乗り換えられている分もあるから良いという一方で、他の公共交通から乗り替わっている分もあります。今後、車を利用している人がバスに乗ってもらうには乗り継ぎの利便性なども考えておかなければいけないと思います。ここで組み合わせを想定されている考慮というのはどんなものなのかということです。</p>
<p>事務局 (井上課長)</p>	<p>これにつきましては、次期計画で議論していただかないといけないと思います。我々としては、1つのイメージですが、ワンコインなどで乗り継ぎを自由にできないかということ、南海さんもIC化の状況になり、その中でシステムに構築できないかなど、費用の面もございしますが、24年度の計画の中で考えていきたいなと考えております。府の方からもシームレス計画等も言われておりますので、そのあたりも加味しながら考えていきたいなと思います。また、交通規制を組み合わせるとより利用しやすい公共交通を構築できないかというようなものもこの場で議論していただければと思います。</p>
<p>堂上委員</p>	<p>南大阪医療センターの利用が4割と多いということですよ。8時か8時半から受付が始まるので、その時間に間に合うような時間にすれば、もう少し乗車が増えると思</p>

	<p>います。また、通勤や通学の利用が少ないのは、その時間帯に便がないからだと思えますので、そのような便を増やせたら、利用者は増えるのではないかと思います。以前にも申し上げましたが、駅からの乗車も6割ということで、美加の台、千代田、三日市があるので、河内長野駅もあればもっと利用があるのかなと思います。近鉄を利用される方であれば、汐ノ宮で降りられて、南医療センターに行く方もおられますが、汐ノ宮の場合はタクシーが常時止まっていませんし、歩くにしても遠い距離ですので、ルートを変更して通勤の方を南医療センターの方へ増やせるのであればよいのではないかと思います。</p>
<p>向井会長</p>	<p>ありがとうございます。以前からもご提案いただいていることですが、基本的な考え方で今後取り入れることもあるのでしょうか。</p>
<p>事務局 (井上課長)</p>	<p>ルートにつきましては、色々ご意見もごきます。与えられた条件下では難しい状況です。概ね1時間に1本という運行をしております、他の所に行きますと時間が多くかかり、利便性の良い乗り物にならないということです。各団地から入れてほしいというような要望もたくさんごきます。それぞれに入れていきますと、仕分けにありましたように、本来のモックルバスのコンセプトそのものが違うものになってしまい、一見利用しやすい乗り物のようで、実際には利用しにくい乗り物になる恐れもごきます。モックルコミュニティバスは、乗り継ぎをよくして路線バスの活性化につなげたいということを目的に運行しております。河内長野駅で言えば、路線バスが活性化せず、各団地に行く路線バス自体が衰退してしまいますと、路線バスがなくなってしまい、全てのものについて、モックルバスを運行しなければならないということになりますので、それらを含め、路線バスと有機的につないで、路線バスの乗客数を増やすという考え方から現在のルートが設定されております。あくまでもルートを変更しないというわけではないのですが、全体的なものを踏まえた上で、24年度の計画をこの場で皆さんと議論していきたいと考えております。</p>
<p>向井会長</p>	<p>長野の駅前まで行きますと既存の路線バスとの関係もあるということですね。</p>
<p>南海バス 野谷</p>	<p>モックルコミュニティバスが走り出したのは平成14年7月6日だと思いますが、同じく河内長野駅から木戸東町行きというバスも市役所に乗り入れて大阪南医療センターに走っておりますので、モックルと同じ1時間に1便でして、赤峯を通過して千代田、南医療センターに行けます。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>河内長野市内の路線バスは基本的にフィーダーがメインなんではないでしょうか。最近、割と循環バスが多いですね。この間岐阜へ行った時もそうでしたし、昨日芦屋行きまし</p>

<p>濱田委員</p>	<p>て、芦屋病院に行くのも両回りがある、料金均一で、割とお客さんが多いと思いました。もちろん都市の構造や、人が行く場所などにもよりますが、全体的にフィーダーでつなぐということが今までのバスの形態だと思いましたが、地方都市などでは巡回型を入れています。今おっしゃられたような、モックルと路線というやり方でなく、もう少し違うやり方があるのではないかなと思います。河内長野市に当てはまるかどうか分かりませんが、一度考えてみていいのではないかなと思います。</p> <p>1 ページから資料を拝見させていただくと、高齢者が一番利用しているということがわかります。高齢者が考えることは、大阪南医療センターを充実させることによって乗客数が増えるのではないかなと思います。現況は近畿大学病院と大阪南医療センターの患者数が非常に変わってきていると思います。病院の経営の仕方でもありますが、河内長野市としては、この南医療センターを充実していただければ、交通を利用することが多くなるということも考えられます。南行きの朝晩のデータが完全に逆になっていますので、奥河内など宣伝しておる観光面などをもっと広く進めるべきではないかなと思いました。これは余談ですが、莊園町でフリー乗降をやっていただいて、皆さん非常に活用しておられるようです。しかし、南海バスさんには言いにくいですが、若い方が同じように利用するというのはどうかと思っております、若い方にはバス停を利用してもらいたいものです。</p>
<p>宮川委員</p>	<p>先程会長からバスの絵画のお話がありましたが、高齢者の方の利用が多いということなので、例えば懐メロなどの BGM をバスの中で流せないでしょうか。病院利用者が多いということで、病気を患っておられる方はやはり気持ちも沈みがちですし、車中で BGM を流すことで、モックルバスの付加価値にならないかなと思いました。南海バスさんが路線バスでは法的にできないということであれば難しいかなと思いますが、東京のハトバスでは満席になるということや、最近テレビでも懐メロ喫茶や高齢者向けにといったものが増えてきているようですので、利用者が多いということを限定したら何か考えられるのではないかなと思います。</p>
<p>向井会長</p>	<p>今おっしゃられたようなアイデアを皆さんからお聞きできればと思います。路線バスでは南海さんいかがでしょうか。</p>
<p>松平委員</p>	<p>BGM を一般路線で流し続けるという話は特に聞いたことがありませんが、停留所の前にワンフレーズだけ流れるというものは、長距離路線の中にはまれにございます。法的にできないということは恐らくないとは思いますが。</p>
<p>宮川委員</p>	<p>だいたい始発から終点まで44分ですので、退屈な時間になっているのかなとも思</p>

	ます。
松平委員	営業運転であれば、著作権などが関係してくると思います。
南海バス 野谷	以前高速バスでもあったのですが、著作権をクリアするのは難しいかと思います。
向井会長	ご高齢の方の利用が多いので、できれば若いお子さん連れの方に対して何かできることがあればよいと思いますが、事務局、何か考えていることはございませんか。
事務局 (井上課長)	11月の利用は前年に比べて26%上がったということで、なぜ11月だけ大きく伸びたのかということを考えてみますと、キックスや市役所の周辺でイベントが多かったということで、11月には期日前投票などがあったことから、沿線におけるイベントがあれば乗客数が増えるのではないかという考えを持っています。イベントを増やすということは難しいのですが、イベントの情報などを配信してコミュニティバスに乗っていただけるようにできないかと考えております。また、モックルコミュニティバスの日曜日の利用率が平日の2分の1という状況でして、来年度皆さんとも協議していきたいと思うのですが、1つのアイデアとしては、日曜日だけおでかけ応援という形で1人大人の方を連れてきていただいたら1人無料にするなどで、2分の1しかない利用率を上げるということを考えております。全体的に収入が下がるかもしれないのですが、乗客数が増えるということで、バスが便利だと思ってもらえる機会作りができればいいと考えております。
向井会長	事務局から1つの案がありました。次回には利用者を増やすためのご提案をいただければと思います。利用客が増えて税の投入ができるだけ少なく、また色々な地域へ範囲を伸ばしていける契機になるよう、委員の皆さんのお知恵をお貸しいただければと思います。
事務局 (水上主査)	委員のご指摘がございました、大阪南医療センターですが、便別利用者数を見ましても南行きは午後、北行きは午前の利用が多いことがわかっておりますので、これらの分析につきましては、南医療センターでお話を伺いたと思います。そのあたりも含めて改善できること、南医療センターさんと協議した上で、こちらの会議でその結果をご報告できたらと考えております。
松本委員	枚方市の例ですが、枚方厚生年金病院へ行くバスでは、京阪バスと市バスとが競合しています。東回り西回り両方ありまして、時間帯が両方とも20分に1回のバスを10分ずらすことで、乗客は10分おきにバスに乗れます。そういった時間帯の調整で

	<p>枚方市は乗客も増やしていると伺っております。料金は市バスが110円で京阪バスが200円ということで市バスが半額ぐらいなのですが、市バスに乗られた方が帰りには京阪バスに乗って、安いほうばかりに乗られるという状態ではないようです。そして、もう一点は介護タクシーですね。介護タクシーの配車は現在、利用するお客さん全てに回れないのが現状です。皆さんが介護タクシーを利用することでタクシー業者が増えれば変わってくると思いますが、利用するには1週間前などに予約しなければならないというのが現状です。</p>
向井会長	<p>それほどニーズが高いということですね。</p>
松本委員	<p>そうです。その方々を路線バスに組み合わせてお考えになれば乗客が増えるのではないかと思います。</p>
向井会長	<p>そのあたりの福祉施策の実態もあわせて調べて下さい。</p>
川岸委員	<p>高齢者が多いということで、以前、高齢者対象のアンケート調査の中で、「電車、バスを使って1人で外出されますか」というところで、元気な高齢者の方は数%利用されると回答されていますが、5%程度は元気で使えるが使っていないという方、要介護の人でしたら、40%の方は利用していますが、あと14.5%の方が利用できるが使っていないとのことですので、その方達を使うようにもっていければと思いますが、一方では外出を控えているという一番大きな理由は足腰が痛いからという統計になっています。残りの要介護の方は何かあれば出てこれる方ではないかと思います。</p>
向井会長	<p>高齢化が進みますので、公共交通を利用する機会が増えるように考えていければと思います。</p>
川岸委員	<p>おでかけ応援バスということで、堺市が5、10日であれば65歳以上の方は公共施設を利用しやすくなるということで、それがずっと継続的にあれば5、10日で催し物など、発展的に考えられますが、税も出さなければいけないということです。</p>
日野副会長	<p>先程事務局からありましたが、同伴者の割引無料制度を早くから望んでおりまして、色々な市の方ともお話しをするのですが、今おっしゃられたように、1で行けるようになったから1で行くかということ、なかなか外出機会を作ることはないのではないかと思います。どちらかと言うと、家族の方が行くときに「おじいちゃん一緒に行こう、おばあちゃん一緒に行こう」というような形が望ましいのではないかと、そのときに同伴の方に割引があれば行きやすいと言いますか、個人的な話ですが、一</p>

	<p>緒に行けば我々が安くなるなど、障害者手帳があった頃に、車で出かけるときに一緒に行かなければ我々はその恩恵が受けられないので一緒に行きましょうなどを言わないとなかなか行きたいと言わない、本当は行きたくても邪魔になるのではないかという思いもあって動いてくれないということがあるので、できれば私などは高齢者の無料という割引というよりも同伴者に対する割引があれば、「仕方がないな、行こうか」というような話にもなるし、先程事務局からもあったように、採算ベースでは同じかもしれませんが、人が増えて、まちの賑わいに貢献したり、出かけ先で食事など支出の面で、お金も回るのではないかと思います。できるだけ高齢者が、「行こうか」となるものを作ることが大事ではないかと思います。</p>
<p>向井会長</p>	<p>先生、委員の皆さんの提案も含めて、次回色々な提案ができるように、委員の方々にも知恵をお貸しいただきたいと思います。ではモックルコミュニティバスについてはこれでよろしいでしょうか。</p>
	<p>【議題2】</p> <p>向井会長 続きまして楠ヶ丘の乗合タクシーについてお願いいたします。</p> <p>(事務局より、楠ヶ丘乗合タクシーの実施状況について資料2の説明)</p>
<p>向井会長</p>	<p>地元も委員会を設置していただいて、熱心に取り組まれているようですが、なかなか伸びないようです。何かこの件について、ご意見等ございましたらお願いします。</p> <p>やはり、通勤に使われるのではなくて、日常の買物への利用が多いようですね。夕方の6時半になると買物も終わられるようです。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>細かいことで恐縮ですが、利用状況を見て水曜、金曜がもしかしたらスーパーの特売に関係があるのではないかということですが、12月3日というのは数少ない80人を超えている日ですが、何か催しでもあったのかと思ひまして。土日の利用は少ないという説明がありましたが、1日だけ80人を超えていますね。土日対策ということで、せっかくですから地元の方に聞いてみてもいいのではないかと思います。</p>
<p>事務局 (水上主査)</p>	<p>それで言いますと、12月22日が連休前で95人と多かったのですが、クリスマスイブの24日が78人ということで、あくまでも推測ですが、連休などの外出が多いのではないかと考えております。ただそれを考えると、年末にもう少し買物で使ってもらっても良かったのかなと思います。そのあたりについては、地域の声も聞いてみたいと思います。</p>

日野副会長	先程の話でもありましたが、需要といたしますか、何か目的があって行かなければいけないとか、行きたいなどというのが大事かと思います。そのあたりを少しフォローしてみてもと思います。
向井会長	正月も同じ便数で走られたのでしょうか。運行していただいている方には大変なことだと思います。 楠ヶ丘の乗り合いタクシーは現況報告ということで、地元の方もがんばっていただいているということです。よろしいでしょうか。
向井会長	<p>【議題3】</p> <p>それでは議題3の平成23年度地域公共交通活性化・再生総合事業の自己評価ということでよろしく願いいたします。</p> <p>(事務局より平成23年度地域公共交通活性化・再生総合事業の自己評価について、資料3の説明)</p>
向井会長	この交通会議で議論してきた内容を、国の方から補助金をもらって色々な事業の取り組みやアイデアを終結したものを含めて現状報告するということですが、記載内容について何かお気づきの点等ございましたらお願いします。
日野副会長	確認ですが、平成22年度に出していた平成23年度のいくつかの事業計画の中で、今回は2つの事業について評価をしていますが、試行や本格運行ができなかった他の取り組みについての記載はどこかにございますか。
事務局 (水上主査)	参考に付けさせていただいております資料3-3で、23年度の事業計画のモックルでありますとか、日野・滝畑、清見台線、南ヶ丘線などございまして、それに対してのできなかったという回答は資料3-1の中で書いております。資料3-2につきましては、その中で実施しました、モックルの上限200円運賃の運行と楠ヶ丘の乗合タクシーの運行、実施した2つの事業について記載しております。
日野副会長	出来ませんでしたと終わることでしょうか。
事務局 (水上主査)	一旦平成23年度の事業計画の中では出来なかったということで終わることになりますが、それにつきましては、次期連携計画の中で取り入れるものは取り入れて、引き続き検討していきたいと考えております。

<p>日野副会長</p>	<p>22年度の結果の中で、達成できなかったものについては縛りを受けることはないのですか。できなかったから次また検討しますとしないといけないわけではないのですか。</p>
<p>事務局 (水上主査)</p>	<p>それはないと思います。 活性化・再生事業計画としては一旦終わりで、次は前回の交通会議でも言いましたが、制度が変わって確保維持改善事業となります。</p>
<p>向井会長</p>	<p>これは近畿圏の方で発表会みたいなものがあるのですか。</p>
<p>事務局 (水上主査)</p>	<p>この交通会議でご承認いただきましたら、運輸局さんの方にご報告させていただいて、今聞いておりますのが、5月に評価委員会がございまして、学識の方でありますとか、運輸局の方の前で、発表にあたるかどうかわかりませんが、そこで評価を受けることとなります。</p>
<p>向井会長</p>	<p>このようなことを報告するというところで、記載されている内容等でもよろしいでしょうか。</p>
<p>事務局 (井上課長)</p>	<p>次回は3月に開催したいと思っております。日時等につきましては改めてご案内させていただきたいと思っております。</p>
<p>向井会長</p>	<p>3月後半になろうかと思いますが、日程調整よろしくお願ひいたします。 本日はこれで終了させていただきたいと思っております。</p>

河内長野市地域公共交通会議委員名簿

平成24年1月25日(水) 午後3時から 河内長野市役所 701会議室

	氏名	所属・役職	代理出席
会長	向井 一雄	河内長野市 副市長	
副会長	日野 泰雄	大阪市立大学大学院工学研究科 教授	
委員	高橋 眞一	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局総務企画部門首席運輸企画専門官	
委員	井上 景之	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局輸送部門首席運輸企画専門官	池垣
委員	石田 幸祐	大阪府 都市整備部 交通道路室 都市交通課 参事	福永
委員	友田 研也	大阪府富田林土木事務所 地域防災監兼地域支援・企画課長	
委員	原田 和則	大阪府河内長野警察署交通課長	
委員	松平 康一	南海バス株式会社企画部企画課長	
委員	奥村 夏男	南海バス株式会社営業部乗客課長	
委員	坂本 頼幸	南海バス株式会社 労働組合代表	
委員	池谷 育晃	大阪第一交通(株) 河内長野営業所長	欠席
委員	棕本 専次	近鉄タクシー(株) 藤井寺総合営業所長	欠席
監事	濱田 義夫	河内長野市老人クラブ連合会会長	
委員	阪上 明	河内長野市観光協会会長	
委員	井戸 清明	河内長野市商工会理事	欠席
監事	松本 甫	市民代表	
委員	堂上 明子	市民代表	
委員	川岸 康泰	河内長野市健康増進部長	
委員	中野 栄二	河内長野市産業振興部長	
委員	宮川 祐次郎	河内長野市都市建設部長	
委員	辻野 修司	河内長野市総務部長	欠席
委員	中谷 眞久	河内長野市市長公室長	欠席